

ダイヤについて

1. 慣熟運転の中で見えてきた課題

・早発／遅延への対応

甲州街道、石田街道という渋滞の発生しやすい道路を走る青柳ルート／泉ルートは、渋滞発生時は遅延するが、一定の遅れを見込んだダイヤを設定すると渋滞が発生していない時に早発となってしまう。日中の 60 分パターンダイヤを保持しつつ、早発／遅延を防ぐための対応が必要である。

・乗り継ぎへの対応

青柳ルートと泉ルート相互の乗り継ぎの必要性は低いと考えられるが、青柳ルート、泉ルートと矢川・東ルート（総合医療センター方面）の乗り継ぎは、多摩総合医療センターへのアクセスを考えると必須である。

・乗務員の休憩

安全運行上の配慮として、一運行毎に短時間でも回送扱いの時間を取り、乗務員のトイレ休憩等にあてる必要がある。

2. 各ルートのサービス（起終点の考え方）

（1）青柳ルート／泉ルート

市役所停留所を起点とし、くにたち福祉会館～矢川駅～緑川／ママ下湧水公園～矢川駅～市役所と回り福祉会館停留所を終点と運行する循環ルートである。福祉会館到着後は市役所に回送する。循環部分に起終点があるので配慮した。

（2）矢川・東ルート

矢川北アパート南停留所を起終点とする循環ルートである。矢川北アパート南到着後は回送とする。

3. ダイヤ設定の考え方

・青柳ルート、泉ルートは終点のくにたち福祉会館到着後、客扱いは行わず市役所駐車場に回送する。

・青柳ルート、泉ルートの車両が福祉会館到着後、矢川・東ルート（多摩総合医療センター方面）の車両が到着するようにし、青柳ルート／泉ルートから矢川・東ルートに乗り継ぎができる。

・矢川・東ルートの多摩総合医療センター方面からきた便から青柳ルート、泉ルートへの乗り継ぎは、くにたち福祉会館のロビーで少し待ってもらい青柳ルート、泉ルートに乗り継いでもらう。